

普賢 Fugen

普賢



発行所：天台宗高龍山明王院普賢寺
発行人：普賢寺 広報部
〒183-0004 東京都府中市紅葉丘2-26-4
電話 042-369-2278 / FAX : 042-336-2610
URL : <http://www.fugenji.com>
メール : info@fugenji.com



「幸せになる？」

リオオリンピックが熱い夏を迎えておりますがいかがお過ごしでしょうか。普賢寺では、蓮が咲き誇っております。短命ながらも泥から咲き誇る、その姿には心を打たれます。さて、今回は「幸せ」について少し考えてみたいと思います。皆さんはどんな時に幸せを感じるでしょうか。「幸せ」という言葉を聞いて、真っ先に思い出されることは何でしょうか。よく「幸せになってください」「幸せにします」などという言葉を聞きますし、幸せについての歌謡曲で有名なものもあります。「：幸せになろうよ」「ああ、幸せだなあ：」「：しかし、その内実はあまり触れられないようです。」

人間はどうしたら幸せになれるかを科学的に証明している面白い本です。前野先生は、幸せには2種類あると分別しています。

1. 地位財：比較によって満足するもの（お金、装飾品、ブランド品など）
2. 非地位財：比較することなく満足を得られるもの（自由、愛情、社会への帰属意識など）

この2つのどちらでもいわゆる「幸せ」を実感することが出来ませんが、地位財は長続きせず、非地位財は長続きする幸せであると実証されております。ブランド品を買っても、数ヶ月経つとまた新たなブランド品に目が移っているシーンはよく見られますが、感謝の心や、家庭の愛情は永続すると言っても過言ではありません。では、仏教が考える幸せとはどのようなものなのでしょう。実は、仏教が説く幸せは、一般的に考えられる「幸せ」とは少々異なります。仏教では、幸せを「安寧」や「安穩」という言葉で表します。どちらかというところ、何かを得ることよりも、幸せを見出すことに重きを置いております。「知足」という言葉があるように、先ず自分が充足されていることを知ることを出発点としております。ですので、仏教的には、幸せになるのではなく、幸せに気づくということが肝要なので

「ああ、幸せだなあ。」

密教って何？

今回は密教について紹介致します。日本仏教では、大きく顕教（けんぎょう）と密教の2つに分けることが出来ます。その違いと共に密教とは何なのかを今回は説明してまいります。

現在、日本で密教を厳密に実践している宗派は天台宗と真言宗の2つになります。普賢寺は天台宗ですので、密教の修行も実践します。密教とは、読んで字のごとく「秘密の教え」です。何が秘密なのかを含めて、お伝えできる範囲でここでは説明してまいります。密教とは一言で言えば、僧侶（行者）が仏と一体となる修法です。

1. 密教の歴史

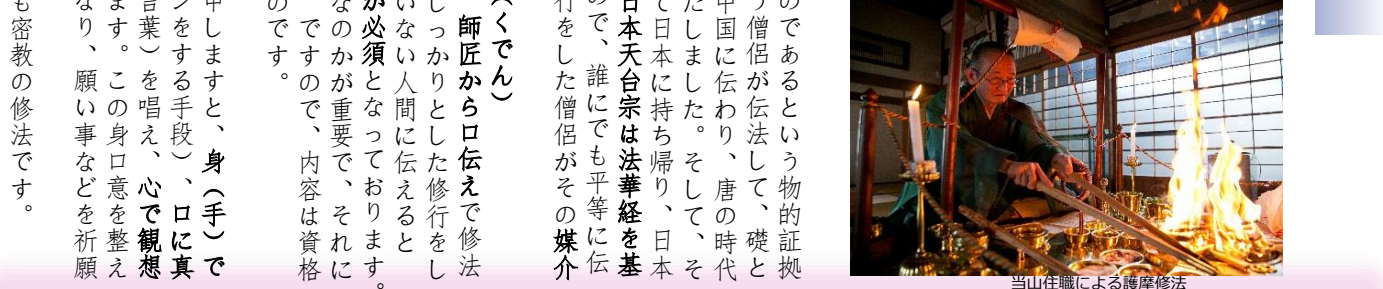
実は、密教自体はお釈迦様が説いたものであるという物的証拠はございません。二―三世紀の龍樹という僧侶が伝法して、礎となったと言われております。その密教が中国に伝わり、唐の時代では「最新の仏教」として多に普及いたしました。そして、その時代に伝教大師、弘法大師が唐に渡って日本に持ち帰り、日本で花を咲かせたということになります。日本天台宗は法華経を基台に、この密教を取り入れました。ですので、誰にでも平等に伝えられる顕教と密教を同時成立させ、修行をした僧侶がその媒介者として存在しております。

2. 師資相承（ししそうじょう）と口伝（くでん）

基本的に、密教の世界は伝法と言って、師匠から口伝えで修法を伝えるものです。そして、その伝法はしっかりとした修行をした者にしか伝えられません。修行をしていない人間に伝えると誤った道に行く可能性があるからです、修行が必須となっております。また、その修法は誰から伝えられたものなのか重要で、それによって正当なものなのか判断されます。ですので、内容は資格のあるものだけ伝えられるため、秘密なのです。

3. 修法（身・口・意）

実際に、どんな修法をしているのかと申しますと、身（手）では印を結び（仏さんとコミュニケーションをする手段）、口に真言（サンスクリット語で仏さんを讃える言葉）を唱え、心で観想（仏さんを思い描き想像すること）致します。この身口意を整えることによって、僧侶は仏さんと一体になり、願い事などを祈願するので



当山住職による護摩修法

普賢寺で毎月28日に修している護摩供も密教の修法です。

論もそもそ

そもそも、お経とはなにか

今回のそもそも論は「お経」です。皆さんにとって法要(法事や葬儀などの儀式)は、お経を聞いて故人に想いを馳せたり、故人を思い出す時間になっていることかと存じます。ただ、何を言っているのか全くわからないからか、子守唄になっている方もいらっしゃるかと思えます。

皆様にとって、お経とは得体の知れない呪文のようなものにも聞こえているかもしれません。今回は、そんなお経を、皆様に少しでもわかっていただけるように論じます。

お経とは端的に言えば、**お釈迦様が説いた教え**です。ただ、お釈迦様本人ではなく、弟子たちが**教えをまとめたため**、お経は膨大な数になりました。本物が偽物かを判断することさえ難しい状況です。其の中でも、確からしいお経が連綿と私たちに伝えられており、読み続けられてきました。特に、私たちが読んでいるお経の



多くは中国語です。なぜ日本人である私たちが、当時の中国語を読んでいるかと言うと、当時の中国語訳のお経の完成度が高かったため、そのまま日本に入ってきて読まれました。さて、私たちが日頃、読んでいるお経にも3つの種類があります。

1. **経蔵** お釈迦様がお伝えになった教えそのもの。
2. **律蔵** 集団生活をする上で必要になる戒律や道德規範。
3. **論蔵** 経蔵の解釈や注釈をまとめたもの。

普段、私たちが読んでいるものは、これらが基本となっております。これに、念仏や真言(サンスクリット語)や伝教大師の言葉などを読んでおります。

特に、天台宗では作法が確立しており、法華経を中心にして懺悔を主にするものや、浄土経を中心に念仏を主にするものなどがあり、それを法事や葬儀で修してあります。聞いているだけでは、何を言っているかわからないとは思いますが、経本を手にとって漢字を見てみると理解することが出来ます。お経の内容を一気に理解することは難しいので、法話や法事の際に、是非お話出来ればと存じます。

七葉

コトノハアレコレ

七葉

第二回 「おはぎ」の呼び名

お彼岸のころになりますと、和菓子屋さんやデパートの店頭でも「おはぎ」が並びます。さて、この「おはぎ」ですが、「ぼたもち」以外にも地方によっては呼び名が違ってくる場合があります。金田一春彦著『ことばの歳時記』(新潮文庫)に次のような話が載っています。

ある宿で一夜をすごすことになった旅人が、宿の主人夫婦のヒソヒソ話を立ち聞きすると「今夜はテウチにしべえか、ハンゴロシにしべえか」と言っているので、肝をつぶして逃げ出したということです。あとで聞いてみると、主人が旅人に手打そばを御馳走しようか、ぼたもちを振舞おうか、という相談だと知って、しまったと思ったという話です。この話は他の地方にも伝わっており、実話にしては少しうますぎる。という言葉で締めくくられていますが、本当にそうですね。

ここに出てくる「ハンゴロシ」とは、おはぎ・ぼたもちの異名で、もち米を半分ほどつぶすのを「ハンゴロシ」。全部つぶすのを「ミナゴロシ」

というところからきているのだそうです。ほかに、ぼたもちの異名としては、「隣知らず」「夜舟」(ともに餅をいつ搗く(着く)かわからないという意)。「奉加(ほうが)帳」(搗く(付く)ところもつかないところもある意)など、さまざまな異名があるとされています。

Info

1. **本堂、客殿、外壁塗り替え工事**
本堂、客殿の外壁を全塗り替えました。普賢寺が永く維持管理できるよう、これからメンテナンスを行います。



2. **坐禅止観体験**

外国人や若者が集まり、本堂にて坐禅止観体験を提供しております。ご希望の方は、お問い合わせください。



3. **青少年登山参加**

青少年を対象にした、比叡山でのサマーキャンプに指導員として参加して参りました。青少年たちの無垢な笑顔がまぶしかったです。

